

「ワークショップ個人記入用紙」集計結果報告

愛知県カラーユニバーサルデザイン普及ワークショップ(於:栄ガスビル 5階キングルーム, 名古屋, 2018/12/17)

第2部ワークショップのグループワークでは、参加者全員に配布された「ワークショップ個人記入用紙」(別紙①参照)の設問にしたがって以下の4点について調査し、AからGまでの全7グループごとに集計し、全体で結果を共有した¹。発表の際に会場で掲示した集計表(図1)をデータ化したものが別紙②(図2)である²。ここでは集計結果の他、各グループのスタッフから寄せられた、グループで交わされた意見や気づき等も合わせて報告する。

- ① 文部科学省が2003年に発行した資料「色覚に関する指導の資料」³の存在を知っているか。
- ② 上記資料で触れられているようなカラーユニバーサルデザイン(CUD)に実際に取り組んでいるか。取り組んでいる場合、どのような取り組みをしているのか(具体的な事例を挙げる)。
- ③ 現在勤務している学校に今必要なCUDの取り組みとして、優先したいことは何か(「ワークショップ個人記入用紙」に示された選択肢14項目から3つを選ぶ)。
- ④ ③で選んだCUDの取り組みとして優先度が高いものはどれか(グループの意見として、優先度が高い順から3つを挙げるとどれか)。

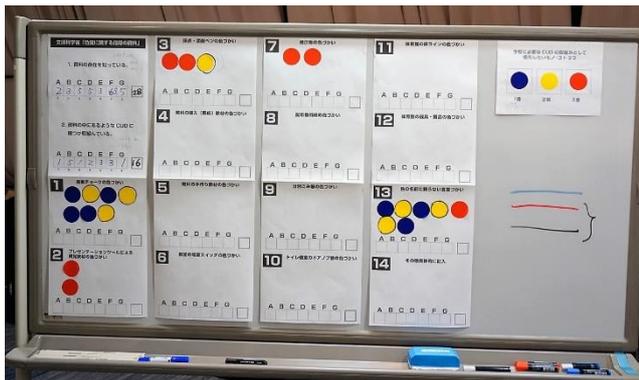


図1 グループワークの集計表

図2 集計表データ(修正後)

1. 「ワークショップ個人記入用紙」の集計結果

(1) 文部科学省発行「色覚に関する指導の資料」の認知度およびCUDの実践例について

文部科学省が2003年に発行した資料「色覚に関する指導の資料」について、「資料の存在を知っているか」にチェックをした者の数は参加者47人中28人で全体の60%、また「資料の中にあるようなCUDに幾つか取組んでいる」にチェックした者の数は16人で全体の34%であった(表1)。グループ別のチェック数からは、資料の存在を知っていることがCUDの実践に繋がるとは言えず、また学校種や地域(学校の所在地)と、資料の認知

¹ グループは、参加者が所属する学校種ごとに次のように分けている。A(小学校7人)、B(小学校5人・中学校3人)、C(小学校8人)、D(小学校8人)、E(中学校6人)、F(高等学校7人)、G(高等学校5人、特別支援学校1人)。なお人数は申込み時点のもので50人、当日参加は47人。47校が参加し、各校1人ずつ参加。

² 会場で掲示した集計表(図1)のシール位置に誤りがあり、修正を施しデータ化した(別紙②および図2)。

³ 文部科学省(2003)「色覚に関する指導の資料」、PDF版が次の2サイトよりダウンロード可能。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/2470/00004402/sikikaku.pdf>; <http://nodaiweb.university.jp/cms/data/sikikakusidou.pdf>

度との相関は見えてこなかった（別紙②参照）。「資料の中にあるような CUD⁴に幾つか取り組んでいる」にチェックした 16 人による CUD の実践例を、以下に A グループから順に G グループまで列挙する（表 2）。なお表中のグループ名横括弧内には、スタッフを除く参加者数と参加者が所属する学校種を、さらに「資料の中にあるような CUD に幾つか取り組んでいる」にチェックした者の数を示した。

表 1 文部科学省による「色覚に関する指導の資料」の認知度

グループ	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ	Fグループ	Gグループ	計
参加者が所属する学校種	7小学校	3小・4中学校	8小学校	7小学校	6中学校	6高等学校	6高等学校	
参加者数(人)	7	7	8	7	6	6	6	47
資料の存在を知っている (% 表示)	29%	43%	63%	71%	50%	83%	83%	60%
資料の中にあるような CUD に幾つか取り組んでいる (% 表示)	14%	71%	13%	29%	50%	50%	17%	34%

表 2 参加者の学校が取り組む CUD の実践例

A グループ (7 人, 小学校) / CUD に取り組んでいる参加者数 : 1 人
・黒板チョークの色づかい
B グループ (7 人中 3 人が小学校, 4 人が中学校) / CUD に取り組んでいる参加者数 : 5 人
・パワーポイントのスライド中の強調文字を青色にする。
・採点を青ペンで行う。
・掲示物で色を使うときは、色面を縁取りする等工夫する。
・教務主任が文部科学省の資料を掲示し注意喚起する。
・年度始めに一度あるいは必要に応じ、職員会議の席で、クラスに 1 人は色弱者がいる、弱度を含めると 3 人はいると思って、赤チョークの使用を控えるようアナウンスする。
・教職員が閲覧可能な Web 掲示板上で、名古屋市と愛知県教育委員会発行の資料データをアップロードするとともに、アナログでも資料回覧も行う。
・印刷室の壁に色覚特性に関する説明や色づかいの注意を記した保健ニュースを掲示している。
・蛍光色チョークの購入を提案し、実際に購入され使用されている。
・採点には赤ボールペンではなく採点専用の朱赤サインペンを使用するようお願いしている。
・カラーコピーの資料を配布する際は、まずモノクロコピーで見え方を確認するとよいとアドバイスしている。
・教職員が閲覧可能な Web 掲示板上で、色弱の生徒のリストを共有し、赤チョークを使わない等注意喚起をしている。
・パワーポイントのスライドでは強調文字を太字にする等工夫している。
・財団法人日本学校保健会作成のチラシ（「みんなが見やすい色環境」）を Web 掲示板上で共有している。
C グループ (8 人, 小学校) / CUD に取り組んでいる参加者数 : 1 人
・白と黄主体で板書するように心がけている。
D グループ (7 人, 小学校) / CUD に取り組んでいる参加者数 : 2 人
・黒板に赤を使う時は文字を白で囲む。
・黒板へ色チョークを使用する場合に赤色は使用しない。赤を使う場合は形を変えたり波線を加える。

⁴ 資料の第 II 章「学習指導のあり方」では、板書、掲示物・スライド・OHP・コンピュータにおける色づかい、地図、採点・添削、実験・実習、造形的な表現活動、教科・科目の評価・評定の 7 節に分けて具体的にどのように配慮すべきかが述べられている。

<ul style="list-style-type: none"> ・板書するときに赤色チョークで文字を書かないようにしている。赤色チョークは囲みやアンダーラインに使う。 ・ピンクチョークは極力使用しない。 ・対応チョークの購入 ・個人で作る資料はモノクロで分かるようにしてから色を使うようにしている。 ・チョークで赤青の使用を避けている（特に文字）、黄色を使うようにしている。 ・赤色のチョークで文字を書くと見分けにくいので赤色のチョークで文字を書かない。
E グループ（6人，中学校）／CUD に取組んでいる参加者数：3人
<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードを使用 ・太いペンで採点する。 ・蛍光チョークを使用 ・自分から色がわかりにくいと言う生徒がいた時は対応できた。 ・赤・青のチョークは使わない。 ・年度初めに全教員に「色覚に関する指導の資料」を配布している。 ・チョークは黄・白のみ ・板書の際には色よりもアンダーラインや囲みなどで区別化を図る。
F グループ（6人，高等学校）／CUD に取組んでいる参加者数：3人
<ul style="list-style-type: none"> ・チョークは白か黄 ・CUD に関する回覧物や掲示物で周知している（勉強会を実施しているわけではないが）。 ・「色覚に関する指導の資料」から内容を抜粋して回覧物や掲示物を作っている（生徒に対しての周知はしていないが、教員の間のみで共有している）。 ・CUD 対応チョークの使用 ・当事者がどのように見えているかを先生方に情報提供してもよいか、ということ当事者や保護者に伝える。 ・当事者の生徒に、配慮する必要があるか、当事者に色覚について声をかけてよいか、保護者に確認をする。
G グループ（6人，高等学校）／CUD に取組んでいる参加者数：1人
<ul style="list-style-type: none"> ・黒板チョークの色づかい（教務にCUD チョークを買ってもらった） ・資料を活用してコピーを取り、全職員に知らせている。 ・職員室のチョーク置き場に要配慮のクラスを示している（要配慮のクラスに、蛍光オレンジのチョーク等古い在庫のチョークではなく、買ってもらったCUD 対応チョークがいくように）。

（2）学校で優先すべき CUD とは

グループワークの後半では、参加者が現在勤務している学校に必要な CUD の取り組みは何かを考えてもらった。まず参加者各自が「ワークショップ個人記入用紙」で示された 14 項目から 3 つを選び（別紙①参照）、その後展示コーナーや各テーブルに用意された資料、教材等で色弱者の見え方をグループで確認したうえで、最後に学校で明日からでもすぐに取り組める CUD として 14 項目のうちどれを優先したいかをグループで話し合い、優先順位 1 から 3 位を決めた。

会場では、14 項目のうちどれが、どのくらい選ばれたのか（つまり参加者にとって重要度が高いとされた CUD がどれか）ひと目でわかるように、1 位に青、2 位に黄、3 位に赤の円形シールを貼って掲示した（図 1 および別紙②参照）。以下に項目ごとのチェック数と、各グループが選んだ優先すべき 3 つの CUD を示す（表 3）。表 3 でグループ A から G 各列の数値右側にある丸囲みの数字①、②と③は、それぞれが選んだ優先すべき CUD 1～3 位を表している。

全体として優先順位が 1 位となったのは 1 「黒板チョークの色づかい」、2 位は 13 「色の名前に頼らない言葉づかい」、3 位は 2 「プレゼンテーションツールによる視覚教材の色づかい」であった。1 「黒板チョークの色づかい」は参加者 47 人中 40 人によって、13 「色の名前に頼らない言葉づかい」は 47 人中 33 人によって優先すべきものと

され、7グループすべてがこれら2つを3位以内に入れており、14項目中この2つが群を抜いて重要と位置づけられた。

2「プレゼンテーションツールによる視覚教材の色づかい」を優先した者は47人中15人で、12人だった3「採点・添削ペンの色づかい」および7「掲示物の色づかい」と拮抗したが、3位以内に入れたグループ数の点でわずかに上回った。小中高等学校でも近年はパワーポイント等によるスライドをスクリーンやモニタに写して授業を行うことも増え、色づかいへの配慮は待たなしの状況であることが伺える。一方チョークはまだまだ教員と生徒を直接結びつける日常的な文房具であり、いまや学校における CUD の象徴として認知されつつある。それがこのワークショップでも示されるかたちとなった。そして「色の名前に頼らない言葉づかい」は、明日からでもすぐに取り組める CUD として注目された。

表3 学校で優先すべき CUD

No.	CUDの取り組み	グループ							計
		A	B	C	D	E	F	G	
1	黒板チョークの色づかい	7 ①	6 ①	6 ②	4 ②	5 ①	6 ②	6 ①	40
2	プレゼンテーションツールによる視覚教材の色づかい	3 ③	4 ③	3	0	0	4 ③	1	15
3	採点・添削ペンの色づかい	2	0	0	3	3 ③	1	3 ②	12
4	教科の購入（既成）教材の色づかい	0	1	0	0	1	1	2	5
5	教科の手作り教材の色づかい	1	0	2	2	1	0	1	7
6	教室の電源スイッチの色づかい	0	0	0	0	0	0	0	0
7	掲示物の色づかい	2	2	4 ③	3 ③	1	0	0	12
8	配布物用紙の色づかい	0	1	1	2	0	0	0	4
9	分別ごみ箱の色づかい	0	0	0	0	0	0	0	0
10	トイレ個室のドアノブ窓の色づかい	0	0	0	0	0	0	0	0
11	体育館の床ラインの色づかい	1	0	1	1	0	0	2	5
12	体育館の器具・備品の色づかい	1	3	0	0	1	0	0	5
13	色の名前に頼らない言葉づかい	3 ②	4 ②	6 ①	6 ①	5 ②	6 ①	3 ③	33
14	その他具体的に記入	1	0	1	0	0	0	0	2
	計	21	21	24	21	17	18	18	140

2. ワークショップの感想・気づき

ここでは、グループワークにスタッフとして参加した NPO 人にやさしい色づかいをすすめる会会員（色弱当事者、ファシリテーター、記録担当）から寄せられた報告を紹介する（表4）。グループディスカッションで交わされた意見の他、自身の感想や気づきが混在し重複する内容も多いが、若干の変更を加えたものの（入力ミスの修正等）、寄せられた文章をほぼそのまま掲載することとした。

表では、それらを報告者ごとに境界線で区切り、「グループワークを通して交わされた意見、ワークショップから得られた気づき等」と「色弱当事者スタッフからの感想・意見」の2項目に分けている。

表4 スタッフから寄せられた感想・気づき

グループワークを通して交わされた意見, ワークショップから得られた気づき等
<p>(ビブスについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリエントールがあれば購入時に選択できる。 ・グループ校や市で購入するか、貸与があればよい。 ・バリエントールでビブスの見分けがつかないことがわかり驚いた。また単純に見分けできないだけでなく、暗い、動いている等に影響することがわかった。 <p>(チョークについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤チョークが見にくいので、すでに対応しているという意見と、今後対応したいとの意見があった。 ・当事者は赤チョークが見にくくても、他の人もこの程度だろうと思っているので、見えにくいという思いは表には出てこないだろう。 ・10色以上のチョークを持っているが、たくさん使うと情報量が多くなりすぎるので使わないようにしている。 ・P型とD型とでは見え方が違う、すなわち色弱者は同じではない。 ・赤を使う時は白で囲み、アンダーラインを入れるとよい。 ・赤でなく黄色を使う。 <p>(ペンについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールペンのオレンジの線は、線だけ見るとオレンジか黄色か黄緑かわからない。キャップとかボリュウムがあるとわかりやすい。 ・蛍光ペンの蛍光色は見やすいのかとの質問があった。蛍光マーカーは基本的に見やすいが、黄緑マーカーより黄、オレンジを使っているの、そのほうがより見やすいのだろう。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者サポーターが色紙の同系色分けをして、バリエントールで見てもらった。たしかに黄、オレンジ、黄緑、黄土、茶あたりがわかりづらいと認識された。 ・個人で作る資料はモノクロでわかるようにしてから色を使うようにしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・知人が、保因者だから子どもをつくらないと言っていた。 ・自分が実際に書いてみて、黒と赤が同じように見え驚いた。 ・絵の具の色と色名が一致しない。 ・裸眼で見る前にバリエントールを掛けてパネルの黒板を見る。先入観が無く色を見ることができた。 ・早速「色のシミュレータ」をダウンロードした方がいた。
<ul style="list-style-type: none"> ・私（色弱の子ども保護者）は、中学校の先生方のグループだったので親近感もあり、お話できてよかったです。先生の親族にもお二人色弱の方がおり、いろんな場面で不思議に思っていた事があったと仰っていました。色のシミュレータをアプリに入れ、どんどんビブスやペンの色を確認し、運動会のリレーやバスケット等の時、苦労していただろうと仰っていました。 ・学校では色弱の生徒の数を把握しておらず、1~2人と思っていたが実際にはもっと多くいるのではと仰っていました。 ・養護教諭も年度初めに資料を配布するだけで、説明していなかったそうです。 ・私（色弱の子ども保護者）に学校に伝えてありますか？と聞いて下さいました。一年生の担当には伝えましたが、2年生の担当は伝えていないと言いました。教えて貰う方がいいと仰っていました。 ・どの先生も積極的に色弱の生徒が困っていることがある事を理解し、工夫して分かりやすくするアイデアを口にしていました。色弱の方にも質問し、話されていました。 ・先生方を見ていたら、きっとこれから色弱の生徒に対して理解して接して下さるようになっていくように感じました。

- ・チョーク（黒板）に興味をもたれた方が多いので、チョークから始めました。
- ・当事者スタッフの方が一生懸命話してくれたので、凄く良かったと思います。
- ・私（グループリーダー）からは、色弱でも人によって見え方が違うので、どの色が見分けやすい・見分けにくいかは、実際に生徒に確認してみるのが良いのでは、という意見を出してみたのですが、先生からは、「色弱であることを言いたくない場合もあるので、難しいこともある（もちろん、本人・保護者が色弱であることを知らせてくれば、そういった対応は可能）」といった話がありました。
- ・色弱をシミュレーションした写真資料（体育館の床など）はインパクトが強かったようで、一人の先生が持ち帰って、学校で共有したいということで、写真資料をお渡ししました。
- ・チョークの他の話はあまり踏み込めなかったので、もう少しグループワークの時間があればよかったかな、という感じです。
- ・1グループ10人（スタッフ含）だと、ちょっと多いのかな、という気はしました。端と端の距離が結構あるので、全員で話し合う形になりにくい。1グループ6人ぐらいが良さそうです。

- ・生活の中にも CUD はありますので、先生もですがスクールソーシャルワーカーにも参加していただけたといいかなと思いました。
- ・愛知県が今回の取り組みを評価いただき毎年恒例になり、さらに多くの人たちへ広がればいいなと思います。

- ・高校の先生からのご意見：色覚検査を全員へ強制的にしなくなったことで、まず色覚に多様性があることが周知されていない。それによって、一般色覚者だけでなく色弱者自体にも自覚がないと感じる。
- ・商業高校の先生のご意見：商業高校は就職する生徒が多いので、色覚検査を強くすすめている。実際検査を受ける生徒は普通科より多いと思う。
- ・私の周りで色弱の方がいるという話は今まで聞いたことがなかったので、本当に約20人に1人の割合で色弱者はいますか？と問うたところ、先生方は、それくらいいますと答えてくださいました。

- ・低学年の教材で、「植木鉢でミニトマトを育てる」課題があるようで、その指導の際に、「これまでトマトの熟し具合を色で説明していたが、今回のワークショップに参加したことで、そのような説明・やり方では十分ではなかった」ことに気づいた、という意見を述べられた先生がいました。カラー写真と対比させ、「まだまだ」、「そろそろ」、「食べ頃」、「熟れ過ぎ」に対応する色具合を示してあげると判りやすいかもしれませんねとの意見が出ていました。
- ・色づかいを意識していなかったこと、伝わらない色づかいがあること、色の見え方の多様性に気づいた。
- ・アプリで確認してみる等工夫できるかもしれない。
- ・色に頼った表現をしていたことに気づいた。
- ・パソコンの色づかひも課題、工夫したい。
- ・美術教員として色の基礎を見直したい。色の名前に頼らない伝え方を勉強していきたいと思った。

- ・ある先生は、トマトの収穫の際に、赤い色が濃くなったら収穫するよう指導されていることについてお困りでしたので、果物カラーチェッカーのように、カラーカードなどでチェッカーをつくり番号をつける等、収穫できる番号をわかるようにするものを作ってはどうかご提案させていただきました。
- ・ご主人が当事者の養護教諭の先生は、子供の顔色がわからなくて、言い合いになっていたようです。気持ちが通じなくて言い合いになることがあるとか。今回の経験で、ご主人の見える世界を少しでも理解ができるとのことでした。今後もっと優しく接することができるとのことでした。
- ・リトマス試験紙のお話では、いつも生徒に色だけで説明をしていたそうです。何年も気にしていなかったが、今後は色名とあわせて説明をすることにしますとのこと。
- ・美術の先生は、今後、美術の授業の中で、また教材を作成する際にこの内容を入れていきますとのことでした。
- ・若い先生方にアプリなどの存在を伝え、資料作成の際に気をつけるように指導をしていくとのことでした。
- ・真ん中のテーブルにある資料、古い地図の教科書は良くない見本でした。これは今後改正されたのかどうか、そ

の後が知りたいので、展示をする際には、置いておくだけではなく、改善案を並べるとよかったとのご指摘ご提案をいただきました。

- ・養護教諭の先生は、当事者本人の体調の悪さを、顔色など気にしないで、生徒に色のことを伝えていたので、理解できていなかったかもしれないとおっしゃっていました。
- ・よかれと思い、男の子に水色、女の子にピンクを意識して使っていたことを反省している方もいました。
- ・体育館の照明が暗いとおっしゃる先生は、バスケの授業では困っているかもしれない、どれくらいの照明がわかって、わからないのかをもう少し知ることができればよかったですとおっしゃっていました。

- ・受講者（先生）同士、知り合いの方も多かったようで、比較的スムーズに打ち解けることができていました。
- ・最大10人1グループのため、机の端と端の人ですと声が届きにくいのかな？と少し感じましたが、この程度は仕方ないかもしれません。
- ・受講者同士の意見交換を主に置くのであれば、受講者を中心に集めた方が良いですが、今回はスタッフがリードしてまとめていく形でしたのでスタッフ席を中央に配置頂いたことで話がしやすかったです。
- ・グループに複数のスタッフを配属頂けたのはとても良かったです。上述のように、端の人に声が届きにくかったり資料が見えにくかったりした際に、近くのスタッフがフォローすることが出来ました。記入用紙の集計もお任せできましたし、途中退席される方への個別対応も、手分けして実施頂きました（アドリブなお願いにも柔軟に対処頂き、同グループのスタッフの皆様には大変感謝致しております）。
- ・ホワイトボードに貼るシール3枚について、シール中央に大きく「1」「2」「3」と書いてあると良いかも、と感じました（“色以外の手段でも情報を伝える”ですね!）。枚数がすごく多い場合は大変ですが、今回くらいなら一応可能かな？と思いましたので。
- ・黄色のチョークもだめで、白チョークだけ使うように言われたことがあるが、CUD対応チョークなら使っても良いのでは？
- ・蛍光オレンジのチョークは在庫が多い。当事者から見えにくい色だと聞いており、その色のチョークを教室に持っていかないようにしている。
- ・暗い背景（黒板？）の赤は「虫くいに見える」と言われたことがある。

- ・今回、ワークショップを進めながら、学校教員ほかと一緒に色々な視点でのお話を聞くことができました。グループリーダとして上手く進められたかは、わかりません。ただ、伝えたい思いをもって、進めることを心がけていました。参加された方が繋がっていきCUDの輪が広がっていくと、うれしいなと思います。また、様々な人にサポートしてもらい、大変にありがたかったです。
- ・最初は学校から強制的に参加されている人が多いのかと思っていたのですが、みなさん違っていました。参加された教員の方は、CUDの言葉をご存知の方が多く、どのように生徒に対応し、正しく伝えるにはどうしたらよいのかを話されていました。ワークショップをしていく中で、バリエーションを通して実際にどう見えるかを体験し、驚かされている方もいました。少し工夫をすることで改善されることがある、自分の学校での生徒への伝え方を反省しながら、伝え方を変えてみますと語っていた方がいました。また学校に戻って他の教員にも伝え、まず出来ることから実施していきたいと話されている方もいて、うれしい言葉でした。その根幹には、相手に対してのやさしさ、思いやりがあるのかと思います。素敵な教員の方々と、少しの時間でしたが、ご一緒できたことに感謝です。ありがとうございました。

- ・黒板よりもホワイトボードの方が見やすいので、導入できるなら積極的にホワイトボードに切り替えていったほうが良いかもしれない。
- ・就職について、美術科の教員採用では絵の具の試験がある場合もあり、当事者にとっては大変つらい。また、色覚特性によって制限されることなく就職できるようになってはきているが、実際のところ、まだ制限がある職種はあるし、表向きには差別していないとしても、暗黙に振り分けている場合があると聞く。本人がやりたいことに対して、そのような制限が出てくるのではないかという不安がある。
- ・授業で付箋をよく使用しているが、付箋の色分けが見にくいという認識がなかった。

色弱当事者スタッフからの感想・意見

- ・苦労、恥ずかしさ、プライドが傷つくこと、隠したこと、無頓着だったこと、平気だったこと等は子どもたち当事者の個人差が大きいだろうと思います。赤チョークが見にくいのは誰もが同じだと思っていたし、思春期の少年はそんなことを誰にも云わないものだということ等も話しました。違和感をもって世界を見ているわけではないことも話しました。当事者個人への対応は教育であり、CUD 個人ではなく環境作りだということをしっかり理解されていて頼もしかったです。
 - ・参加者はCUDについてもよく理解されていた。色弱者本人への対応もあるが、CUDの観点からの取組みということもよく理解していたし、色弱者の生徒のこともほぼ把握されていた。
- ・「名札の氏名の前のPまたはDは当事者です。質問があれば遠慮なく聞いてください。」とアナウンスしていただければうれしいです。医療のことは個人情報のなかでも、最も重要なことと思います。初めて会った方に対して、質問に躊躇があるのが普通です（紹介があれば質問しやすくなるのではないかな）。
- ・振り返りのとき他のグループが盛り上がり、騒音が大きく当グループは隣の方としか意見交換できなかった。
 - ・小学生のころ習字は朱墨、テストの採点の赤鉛筆は今の朱赤でした。
 - ・配布された小冊子『色覚異常といわれたら』4頁に、2型色覚の特徴として「緑は普通の明るさに見え、薄暗くはならない」とある。私（D型弱度）は赤に比べて緑は薄暗く見えていると思っています。でも赤が明るく見えているのかもしれない。
- ・皆さん、ある程度CUDに興味がある状態で参加されたと思います。
 - ・話には聞いたことがある、本で読んだことがある、でも実感はない、参加者は最初そんな状況だったかと思います。しかし、講師の話聞き、ワークショップで同じ題材を、自分の目でみる（通常の見え方）、バリエーションの見え方を体験する、当事者の見え方と比較することで、色弱者の見え方を体験し、見え方の多様性を実感いただけたように感じました。私も「どう見えるのか？」と問われれば、正直に説明しました。
 - ・さすが先生方、良かれと思っていた色づかいに、一部の児童・生徒が不自由していることに思い至ると、「私が何とかせねば、行動せねば」と意識を変えられた方が何人もいらっしゃいました。私のグループでは、明らかに雰囲気が変わりました。その方が、自分の学校に戻り、周りに広めるような行動をしていただけると、CUDがますます普及するかもしれません。簡単なことではないと思いますが、一歩ずつ拡がることを期待します。
 - ・愛知県にも、年1回程度、今回のような機会を設定できることを希望します。多くの先生方に、ぜひ、色の見え方の多様性を実感していただきたいと思います。
 - ・一人の先生と、連絡先を交換しました。できることがあれば、可能な限り協力したいと思います。

▼添付資料

- ・別紙①「ワークショップ個人記入用紙」
- ・別紙②「掲示用集計表」

以上

(2019/01/03, 報告者：林 羊歯代)

「愛知県カラーユニバーサルデザイン普及ワークショップ」 2018/12/17

ワークショップ個人記入用紙

- 文部科学省「色覚に関する指導の資料」には、CUD の具体的な事例が掲載されています。該当するものにチェック☑してください。

1. 資料の存在を知っている。
2. 資料の中にあるような CUD に幾つか取組んでいる。

取組みの具体的な事例を記入ください。

()

- 学校に必要な CUD の取組みとして、優先したいモノ・コト 3 つを選択して該当するものにチェック☑してください。

	1	黒板チョークの色づかい
	2	プレゼンテーションツールによる視覚教材の色づかい
	3	採点・添削ペンの色づかい
	4	教科の購入（既成）教材の色づかい
	5	教科の手作り教材の色づかい
	6	教室の電源スイッチの色づかい
	7	掲示物の色づかい
	8	配布物用紙の色づかい
	9	分別ごみ箱の色づかい
	10	トイレ個室のドアノブ窓の色づかい
	11	体育館の床ラインの色づかい
	12	体育館の器具・備品の色づかい
	13	色の名前に頼らない言葉づかい
	14	その他具体的に記入

文部科学省「色覚に関する指導の資料」

1. 資料の存在を知っている。

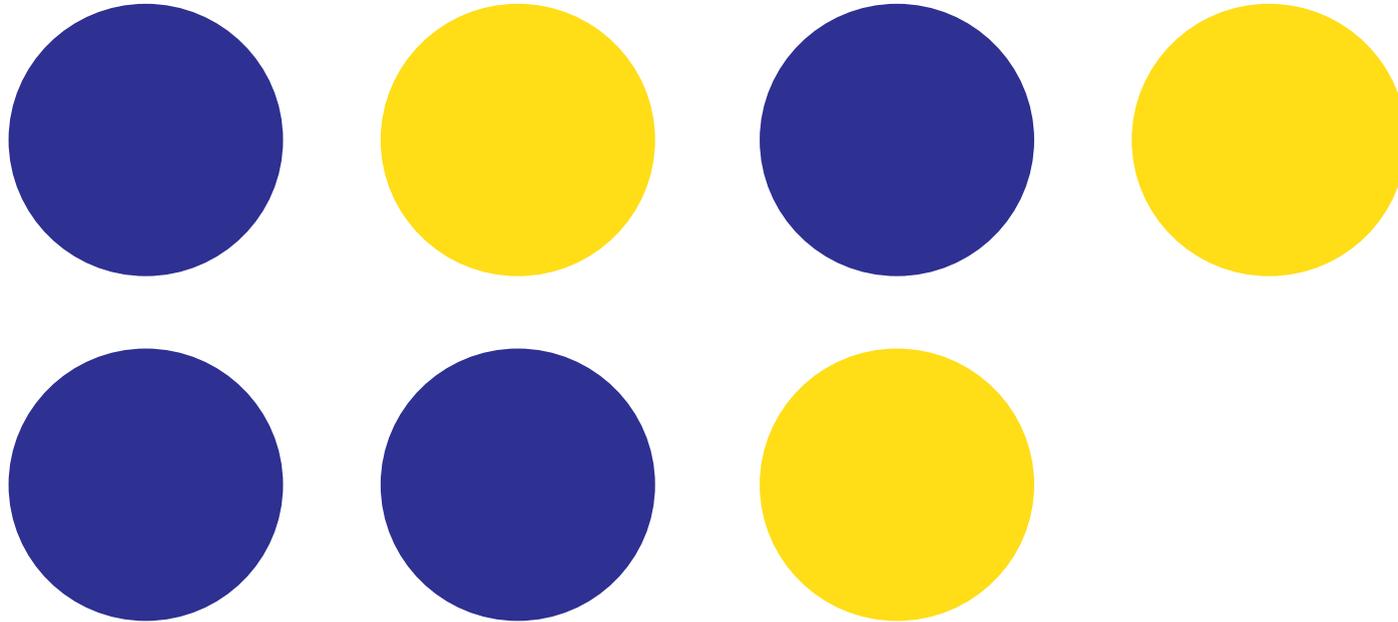
A	B	C	D	E	F	G	
2	3	5	5	3	5	5	28
7	7	8	7	6	6	6	

2. 資料の中にあるような CUD に 幾つか取組んでいる。

A	B	C	D	E	F	G	
1	5	1	2	3	3	1	16
7	7	8	7	6	6	6	

1

黒板チョークの色づかい



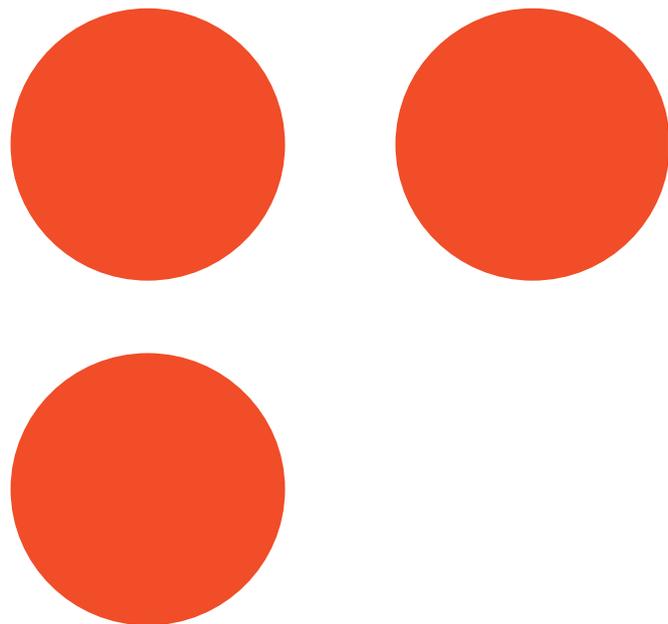
A B C D E F G

7	6	6	4	5	6	6
---	---	---	---	---	---	---

40

2

プレゼンテーションツールによる 視覚教材の色づかい



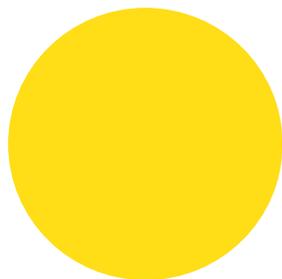
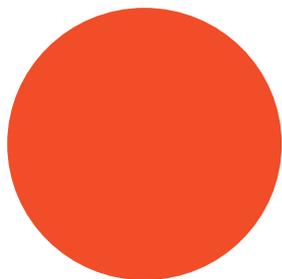
A B C D E F G

3	4	3	0	0	4	1
---	---	---	---	---	---	---

15

3

採点・添削ペンの色づかい



A

B

C

D

E

F

G

2	0	0	3	3	1	3
---	---	---	---	---	---	---

12

4

教科の購入（既成） 教材の色づくり

A	B	C	D	E	F	G	
0	1	0	0	1	1	2	5

5

教科の手作り教材の色づかい

A

B

C

D

E

F

G

1	0	2	2	1	0	1	7
---	---	---	---	---	---	---	---

6

教室の電源スイッチの色づかい

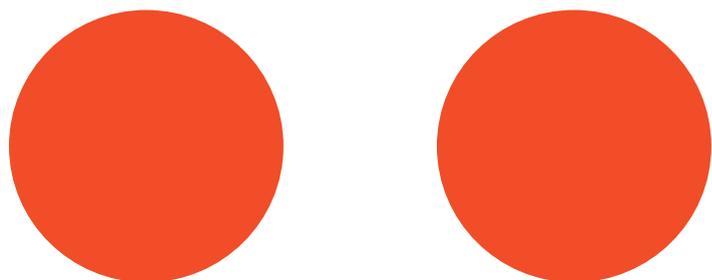
A B C D E F G

0	0	0	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---

0



掲示物の色づかい



A

B

C

D

E

F

G

2

2

4

3

1

0

0

12

8

配布物用紙の色づかい

A B C D E F G

0	1	1	2	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---

4

9

分別ごみ箱の色づかい

A B C D E F G

0	0	0	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---

0

10

トイレ個室のドアノブ窓の色づかい

A B C D E F G

O	O	O	O	O	O	O
---	---	---	---	---	---	---

O

11

体育館の床ラインの色づかい

A

B

C

D

E

F

G

1	0	1	1	0	0	2
---	---	---	---	---	---	---

5

12

体育館の器具・備品の色づかい

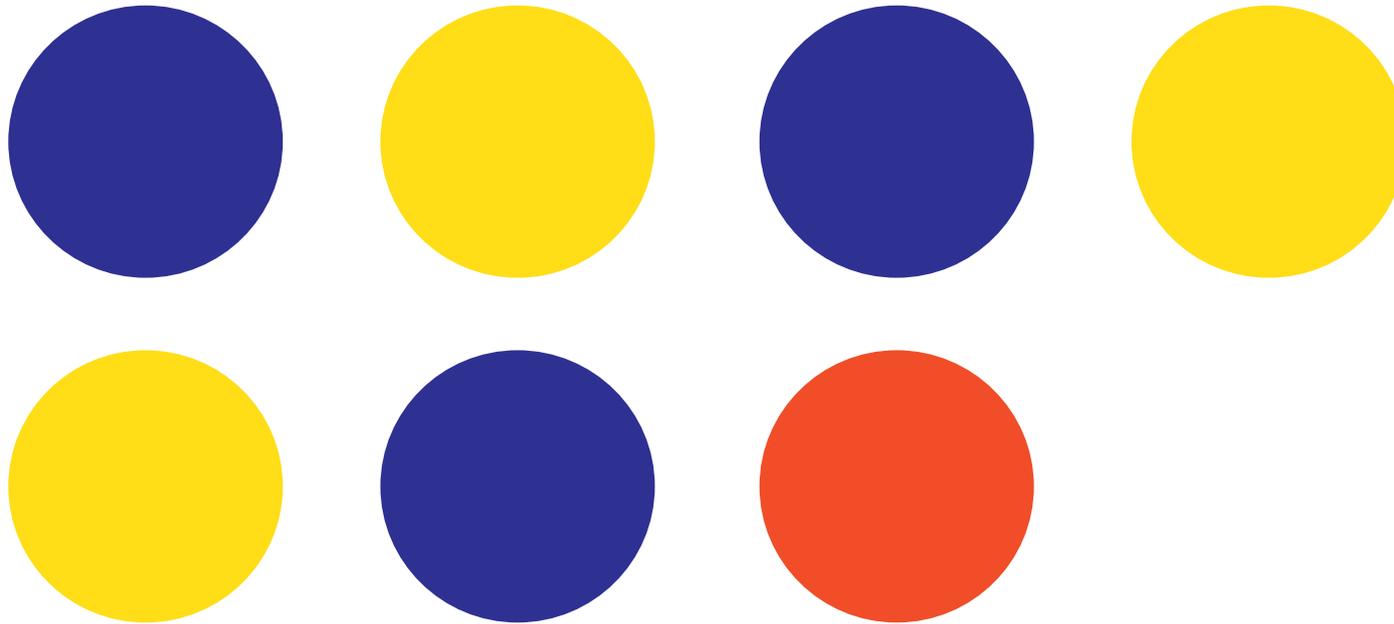
A B C D E F G

1	3	0	0	1	0	0
---	---	---	---	---	---	---

5

13

色の名前に頼らない言葉づかい



A B C D E F G

3	4	6	6	5	6	3
---	---	---	---	---	---	---

33

14

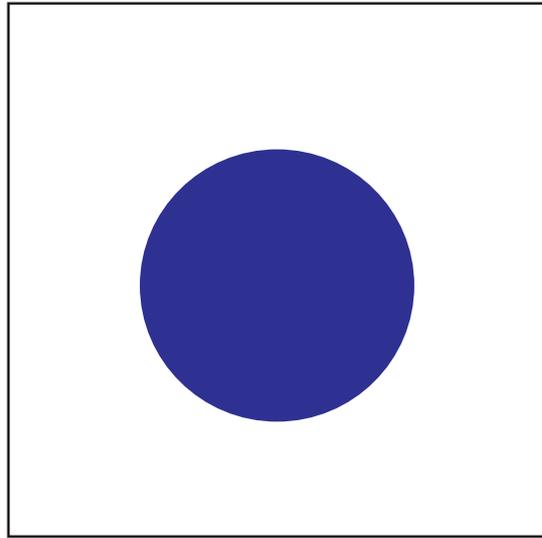
その他具体的に記入

A B C D E F G

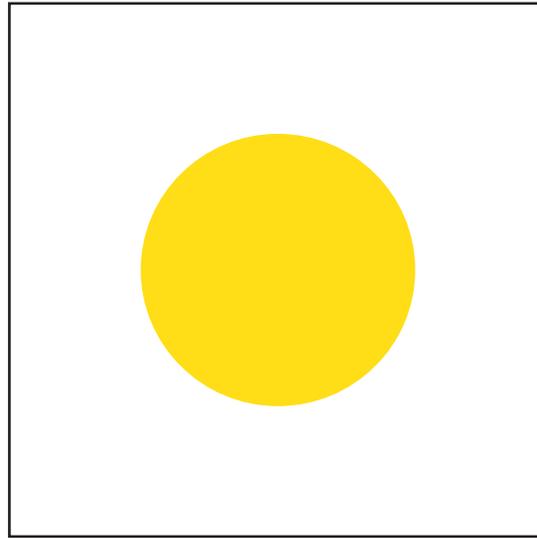
1	0	1	0	0	0	0
----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

2

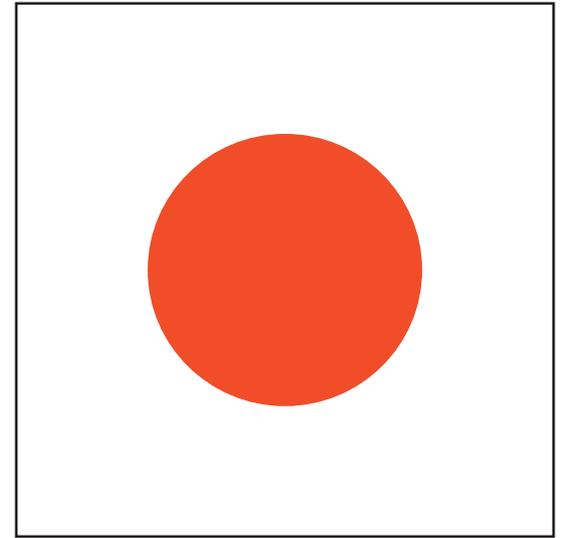
学校に必要な CUD の取組みとして 優先したいモノ・コト 3つ



1番



2番



3番